

第 6 次基山町総合計画

(計画素案：未定稿)

令和 6 年 7 月
基山町

●●目 次 ●●

序 論 ～まちの「 ^{いま} 現在」と「 ^{これから} 未来」について～	1
1 基山町の「 ^{いま} 現在」をみてみよう	1
2 踏まえるべき時代の潮流	3
基本構想 ～10年後、こんなまちに暮らしていきたい～	5
1 10年後に実現したいまちの姿（将来像）	5
2 「 ^{これから} 未来」の基山町にふさわしいまちづくりを進めるために	7
3 10年後にめざすまちの人口	10
4 重点プロジェクト	11
5 まちづくりの全体像	14
基山町総合計画について ～計画の位置づけ・役割・推進体制について～	17
1 計画の位置づけと役割	17
2 計画の円滑な推進	21

序 論

～まちの「いま現在」と「これから未来」について～

序 論

～まちの「^{いま}現在」と「^{これから}未来」について～

1 基山町の「^{いま}現在」をみてみよう

第6次基山町総合計画では、基山町の「^{いま}現在」を表す強みとして、次に掲げる 10 ^{プラス}plus 1 を“きやまPRIDE”^{プライド}とします。

10 ^{プラス}plus 1 の“きやまPRIDE”^{プライド}

PRIDE

01

自然

まちのシンボル^{きざん}基山をはじめとする豊かな自然環境

まちのシンボルである^{きざん}基山をはじめ、さまざまな水生生物が生息する町内の河川など、豊かな水と緑を感じることができる自然環境は、未来へ継承すべき貴重な財産です。

PRIDE

02

立地

福岡都心部から 20 分の好立地

福岡県に隣接する佐賀県の東の玄関口で、国道 3 号、県道 17 号、九州自動車道、JR 鹿児島本線が縦走する九州の陸上交通の要衝地です。また、福岡都心部への通勤も 20 分程度の好立地にあります。

PRIDE

03

生活

コンパクトで心地よい暮らしを実現

JR 基山駅を中心とした徒歩 15 分圏内に、必要な生活機能が揃うコンパクトシティです。また、福岡都市圏や町外の大型商業施設との近接性を生かし、豊かで心地よい暮らしを実現しています。

PRIDE

04

歴史

古代の日本を現代に伝える特別史跡^{き い じょうあと}基肄城跡

天智 4 年（665 年）に築かれた日本最古の本格的な朝鮮式山城である^{き い じょうあと}基肄城跡は、歴史的・学術的価値が非常に高く、佐賀県内で初めて国の特別史跡に指定された日本を代表する史跡のひとつです。

PRIDE

05

経験

経験豊かなプラチナ世代

人生経験や知識を生かしてセカンドライフにおける地域貢献と生きがいづくりを実践するプラチナ世代は、多世代交流によるまちづくりを行う地域の担い手です。

PRIDE

06

成長

地域トップクラスの子育て支援

医療費助成や保育環境の充実など、子育て世代を支える多様な支援を実施しています。また、妊娠・出産から子育てまで切れ目なく一人ひとりに寄り添い、子どもの成長を見守っています。

PRIDE

07

企業

時代をリードする優良企業の集積地

九州自動車道、国道3号の巨大物流拠点である立地特性を強みに、時代をリードする優良な“ものづくり”企業が数多く集積しています。また、交通利便性による就労（通勤）環境も備えています。

PRIDE

08

知性

日本一の貸出冊数を誇る知の拠点

木の温かさを感じることができる町民の憩いの場、知の拠点として、平成28年（2016年）に開館した基山町立図書館。開館以来、人口2万人未満の町村で貸出冊数全国1位を維持しています。

PRIDE

09

人財

多分野に著名人を輩出する人財の宝庫

プロ野球選手や漫画家、お笑いコンビなど、多くの分野で日本を代表する著名人を輩出している人財の宝庫です。町民栄誉賞の授賞やふるさと大使の任命などにより、広く町民に愛されています。

PRIDE

10

連携

県境を越えて経済と暮らしをつなぐ広域ネットワーク

行政・経済・文化・スポーツなどにおいて、県境を越えた広範な連携と交流により、地域の一体的な発展を図っています。また、民間企業との包括連携協定も数多く締結し、官民連携の取組も充実しています。

PRIDE

+1

愛情

人の温かさを感じるまち

昔ながらの人の温かさや地元愛を感じることができる居心地の良いまちです。また、町民と行政の距離が近く、地域の困りごとを一緒に考える職員がいることも小さなまちの強みです。

2 踏まえるべき時代の潮流

社会を取り巻く環境は、人口減少とともに、少子化や長寿社会の進展、経済規模の縮小、デジタル化をはじめとする技術革新、新型コロナウイルス感染拡大の影響による新しい生活様式への転換など、これまでも大きく変化してきました。

これからもさまざまな状況に直面することが予想されるため、「未来」^{これから}の変化に備えていく必要があります。

(1) 人口減少社会の進行（地域力の低下）



- 人口減少による労働力の不足や経済規模の縮小、社会保障費の増大
- 地域社会における担い手不足、地域の活力や支え合い機能の低下
- 地域社会の一員として世代を超えて知識や経験を生かす多世代共創への取組

(2) 人生 100 年時代の到来



- 人口減少と同時に超高齢社会を迎え、支援を必要とするプラチナ世代を支える担い手の確保や増大する医療・介護費等への対応
- 「人生 100 年時代」の到来に向けた、世代を問わず地域で活躍する機会や場の形成

(3) 子どもを取り巻く環境の変化



- 児童虐待やいじめ、不登校のほか、貧困問題など子どもを取り巻く環境が複雑多様化
- 人間関係の希薄化による地域の見守りや子育て力の低下
- ヤングケアラー等の支援を推進し、どのような境遇にあっても夢や希望の持てる社会の実現

(4) 多様性の受け入れ・地域共生社会の形成



- 国籍・地域や民族、性別（LGBTQ 等の性的指向・性自認）、障がいの有無等による違いを認め合う社会の形成
- 地域の多様な担い手が「我が事」として参画し、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながる「地域共生社会」の実現

(5) デジタル社会への対応



- DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展と社会・経済の活動や人々の暮らしの変化
- デジタルデバイド（情報格差）、プライバシー、情報セキュリティなどの新たな課題の発生

(6) 産業構造・地域経済環境の変化



- 多様化する市場ニーズなどの変化に対応した付加価値の創造や生産性の向上、「Society5.0」を背景とした新たな事業の拡大や事業活動の再構築等
- 観光需要やビジネス等での人々の新たな交流機会の広がり、地域性を前面に出した商品や体験による“コト消費”等

(7) 国土強靱化・安心安全に対する関心の高まり



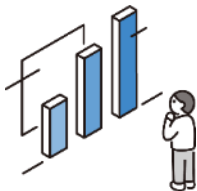
- 近年の台風や集中豪雨、大規模地震など、人々の自然災害に対する安全意識の高まり
- 消費生活におけるトラブル、インターネットを介した犯罪、高齢者ドライバーによる事故の増加等に対する不安

(8) 脱炭素・循環型社会への対応



- 「地域で考え、地球規模で行動する(Think locally, Act globally)」という視点に立ち、一人ひとりが環境に配慮した暮らしの実践

(9) 不確実で将来予測の難しい時代、持続可能な社会への対応



- 世界的な金融引き締めに伴う影響、円安の急激な進行、ウクライナ情勢による物価上昇等、先行きが不透明な時代の到来
- 平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）による「誰一人取り残さない」取組の進行

基本構想

～10年後、こんなまちに暮らしていきたい～

基本構想

～10年後、こんなまちに暮らしていきたい～

1 10年後に実現したいまちの姿（将来像）



～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～

基山町はこれまで、住む人や訪れる人にとって満足度 No.1 のまちをめざし、「他よりちょっと^{アイ}人^{アイ}が大きいまち」を将来像とするさまざまな取組を進めてきました。

新たな10年間のまちづくりでは、基山町の誇りである「アイ」を大切にしながら、町民同士が心を通わせ合い、住む人が豊かな生活を送ることができるように、これまでの取組を進化（深化）させます。

さらに、まちの賑わいを創出することで、訪れる人にも親しまれる真に「アイが大きい基山町」の実現に向けて、将来像を『シン・アイが大きい基山町』とします。

また、基山町の立地や暮らしから感じられる“ちょうどいい”まちの雰囲気の中、あらゆる世代が個々に輝き、交流する「多世代共創」によって新たな価値を生み出していくという想いを込めています。

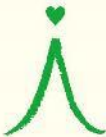


『シン・アイが大きい基山町』 (まちへの誇りと想い)

「シン」は、基山町の将来のまちづくりに対してさまざまな意味（想い）の捉え方ができるよう、特定の表記を用いず、「シン」とカタカナで表しています。

「新」	新たなまちづくりに取り組みます。
「心」	人と人との心を通わせるつながりを大切にします。
「進」	これまでの取組をさらに進めます。
「深」	これまでの取組をさらに深めます。
「賑」	地域の活性を促す賑わいを興します。
「親」	まちへの愛着や人との関わりが生む、親しみを醸成します。
「真」	基山町に真に求められる取組を追求し、町民の暮らしやまちの発展を支えます。

「アイ」については、これまでのシティプロモーションでの「」に込めた誇り、想いを継承し、文中では「アイ」とカタカナで表しています。

基山町は他よりちょっと  が大きいまちです



^{きざん}
基山町のシンボル「基山」が大きな誇りです。



基山町は「ひと」が大きな誇りです。



I (愛) 基山町は「愛」が大きな恋人の聖地です。



i - (information) 基山 PA は九州に向けての基山情報の発信基地です。



+ idea で、住民のみなさんのアイデアであふれています。

基山町は、たくさんの人が集う「**出 会 い (i)**」のまちです。

※ 第5次基山町総合計画から抜粋

2 ^{これから}「未来」の基山町にふさわしいまちづくりを進めるために

「^{いま}現在」の基山町を次の世代「^{これから}未来」に継承していくために、一人ひとりに寄り添い、まちの魅力をどのように守り、時代に合わせて発展していくか、ともに考え、行動することが求められます。

また、将来像である『シン・アイが大きい基山町』～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～を実現し、「^{これから}未来」の基山町にふさわしいまちづくりを進めるためには、町民、地域団体、企業、行政等が世代や分野を超えて広く連携し、それぞれが持っている知恵や力を十分に生かしながら、「みんなでつくる（多世代共創）」のまちづくりに取り組む必要があります。

そこで、誰もがさまざまな主体とともにまちづくりに取り組むことができるよう、共有すべきまちづくりの視点を「はぐくみ」「やすらぎ」「にぎわい」「うるおい」と定め、これら4つの視点から各施策・事業の重点化を図ることで、町民が“ちょうどいい”つながりを持って暮らすことができるまちをめざします。

『シン・アイが大きい基山町』 ～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～ の実現に向けた4つのまちづくりの視点



はぐくみ 基山町を愛し夢を実現できる人を育てるまちづくり

■● まちづくりの視点 ●■

「まちづくりは人づくり」といわれるように人材は地域の大切な宝です。

基山町への愛着や学び、交流や子育てといった人づくりに資する「はぐくみ」を新たなまちづくりの原動力とします。

■● まちづくりの方向性 ●■

子育て世代や働き盛りの世代が基山町に住み続け、子どもの成長に喜びや生きがいを感じ、安心して子どもを生み育てることができるよう、こども家庭センターを中心に切れ目のない子育て支援を行い、地域全体で子どもたちや若者の健やかな成長を育みます。

また、基山町は貴重な歴史や文化遺産、伝統芸能などの多様な地域資源を有しているほか、これまで数多くの著名な人材を輩出しています。こうした基山町の魅力を次世代へ引き継ぐとともに、確かな学力につながる学校教育のさらなる充実を図ります。

さらに、世代を超えて集い学び合う社会教育や文化・スポーツを通じた交流活動により、基山町を愛し、夢を実現できる人を育てるまちづくりを推進します。

【施策体系】 ●子育て支援 ●学校教育 ●歴史 ●社会教育

やすらぎ 誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり

■● まちづくりの視点 ●■

これからも住み慣れた地域での暮らしが「やすらぎ」に満ちたものとなるよう、町民がお互いに心を通わせ認め合い、いざというときには助け合える環境や一人ひとりに寄り添う支援を整えます。

■● まちづくりの方向性 ●■

高齢化率が3割を超え、長寿社会がさらに進展するなかで、健康寿命の延伸や医療費の適正化につながるための健康づくりと安心して暮らすための福祉、医療体制を確保します。

加えて、プラチナ世代や障がいのある人など多様なニーズに寄り添う支援の充実を図ります。また、地域の大切な担い手であるプラチナ世代の経験やスキルを生かした地域活性化に取り組みます。

さらに、近年の自然災害の頻発化・激甚化や暮らしのさまざまな危険に対処できるよう、防災、防犯体制の整備等を着実に進め、誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくりに取り組みます。

【施策体系】 ●健康・医療 ●プラチナ世代支援
●障がい者（児）支援 ●人権・男女共同参画
●防犯・防災 ●協働

にぎわい 多様な地域資源を生かすまちづくり

■● まちづくりの視点 ●■

恵まれた立地とアクセスの良さにより、生涯現役で働くことができる多様な働く場や産業構造を有します。地域産業の振興に加え、まちのシンボル基山^{きざん}や基肄城跡^{きいじょうあと}などの地域資源を生かし、訪れる人を引き寄せ、活力を生む「にぎわい」を興します。

■● まちづくりの方向性 ●■

基山町は、多様な働く場や産業構造を有し、豊かな自然環境、県境としての立地とアクセスの良さを生かして発展してきました。基山町が将来にわたって発展するために、今後も広域や官民による経済連携を深め、新たな価値を創造する地場産業の成長を支援します。

加えて、町民が働くことを通して生計を立てる基盤を形成するために、若者や女性、プラチナ世代等の就労を支援します。また、就業の場として、基山町から通勤できる企業とのマッチングや、町内への新たな企業の誘致、起業や就農等を支援することにより、働く環境を創出します。

さらに、基山町の魅力を発信し、人々が訪れたいくなるような観光振興、農・林・商・工が有機的に結びついた地域経済の好循環の確立と関係人口の拡大を図るために、多様な地域資源を生かすまちづくりを推進します。

【施策体系】 ●農林業 ●商業 ●工業 ●観光

うるおい 自然と共生した快適な生活基盤をととのえるまちづくり

■● まちづくりの視点 ●■

豊かな自然環境と利便性を併せ持つ「うるおい」のある暮らしを大切にし、これからも住み心地の良いまちづくりを推進します。また、身近で開かれた行財政運営によって、暮らしや企業活動を支えます。

■● まちづくりの方向性 ●■

基山^{きざん}をはじめとする豊かな自然環境とともに、交通の利便性やコンパクトシティというまちの特性を生かし、自然と暮らしがよりよく調和した“ちょうどいい”まちなか空間を整備することで移住定住を促進します。

また、一人ひとりが環境に配慮した暮らしを意識し、豊かな自然を将来に引き継いでいきます。

さらに、まちの運営では、町民に信頼される職務を遂行するほか、急速に進むデジタル社会へ対応するためのDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進し、業務の効率化と町民の利便性の向上につながる質の高い行政サービスを提供します。加えて、施設やインフラの長寿命化や有効活用につながるよう、長期的な視点から健全な行財政運営に取り組みます。

【施策体系】 ●土地利用 ●まちなみ環境 ●情報 ●まちの運営

3 10年後にめざすまちの人口

人口推移

基山町は、住宅施策や子育て支援施策により、平成28年度（2016年度）から8年連続の社会増（転入者数－転出者数）となり、令和2年度（2020年度）から4年連続で人口が増加しています。

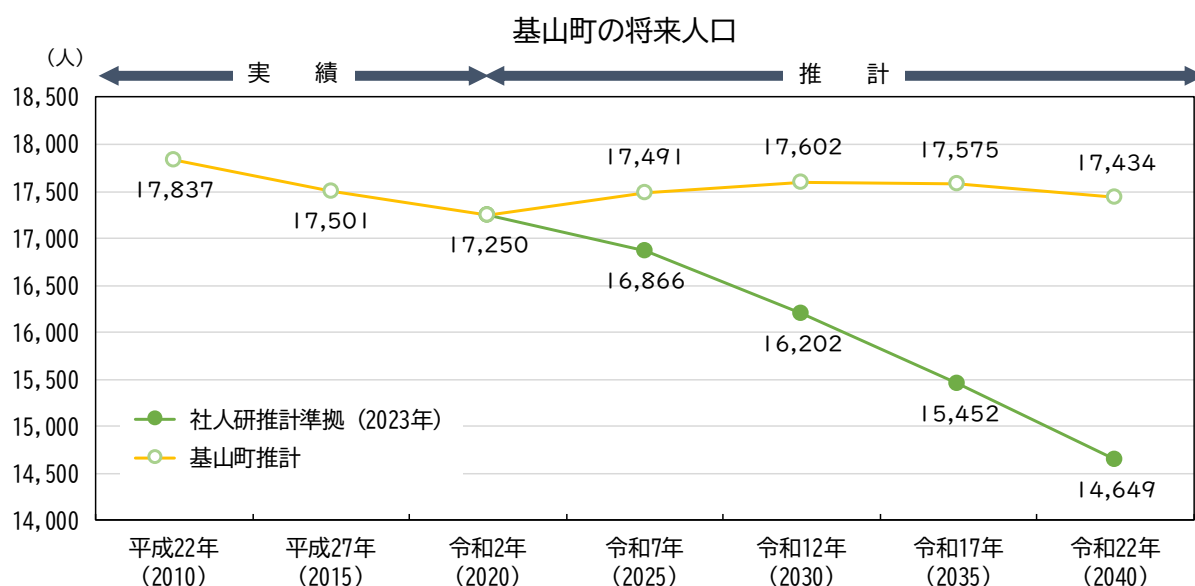
	平成 28年度 (2016)	平成 29年度 (2017)	平成 30年度 (2018)	令和 元年度 (2019)	令和 2年度 (2020)	令和 3年度 (2021)	令和 4年度 (2022)	令和 5年度 (2023)
人口（人）	17,360	17,314	17,390	17,365	17,412	17,437	17,516	17,520
前年度比	15	△46	76	△25	47	25	79	4
世帯数（世帯）	6,656	6,763	6,889	6,995	7,144	7,221	7,359	7,472
前年度比	120	107	126	106	149	77	138	113
平均世帯人員	2.61	2.56	2.52	2.48	2.44	2.41	2.38	2.34

※ 各年度の3月末時点（住民基本台帳）

努力目標人口

国や県でも人口減少が進み、基山町においてもこのままの推移が続く場合、人口の減少が見込まれます。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）に準拠した推計値では、令和22年（2040年）に15,000人を下回ることが見込まれています。

新たな総合計画では、年齢層の状況に応じた人口対策に積極的に取り組み、人口構造の平準化を図ることにより、令和17年（2035年）の努力目標人口17,575人をめざします。



※ 平成22年（2010）から令和2年（2020）の値は、国勢調査実績値

4 重点プロジェクト

将来像である『シン・アイが大きい基山町』～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～を実現するために、今後 10 年間で集中的に取り組むべきことを重点プロジェクトとして位置づけ、施策の枠組みを超えて横断的に進めます。

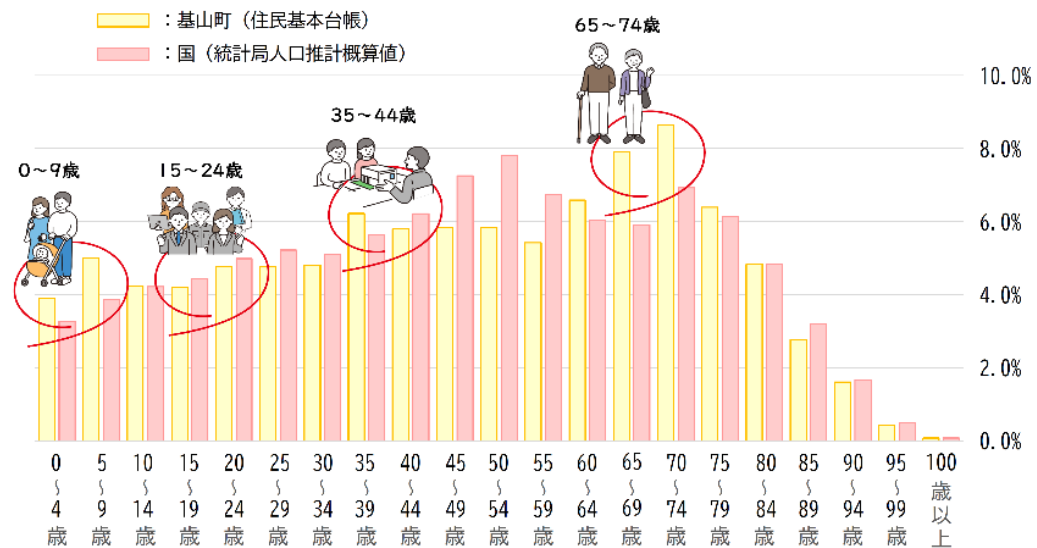
1 取り組むべき重点プロジェクトの背景

重点プロジェクトの背景

基山町の年齢別人口を国と比較すると、割合が特に高い層や低い層がみられ、これらが町の人口構造の特徴といえます。

そのため、この特徴をもとにそれぞれの注目すべき年齢層に求められる取組を重点的に行い、若年層の人口を増やすことで人口構造の平準化を図ります。

5 歳階級別年齢割合グラフ（令和6年（2024年）3月）



特に注目すべき年齢層と求められる取組は次のとおりです。

年齢層	人口構造から求められる取組
0～9 歳	国と比較して高く、特に5～9歳は町の他の年齢層と比較しても高くなっています。こうした特徴を生かし、今後も子どもを安心して生み育てられる取組が求められます。
15～24 歳	国と比較して低く、就職を機に転出するケースが多いとみられます。そのため、若者世代が基山町から通える場所で働けるよう転出の抑制につながる取組が求められます。
35～44 歳	年齢構成のなかで比較的高い割合にある背景には、転入者の増加があるとみられます。このような高い割合を維持するためにも、基山町に住んでみたい、住み続けたいと思える取組が求められます。
65～74 歳	国と比較して高く、町の年齢構成のなかでも特に高い割合にあるため、いきいきと生涯現役で暮らせる取組が求められます。

2 今後10年間で集中的に取り組むべき重点プロジェクトについて

重点プロジェクトでは、プラチナ世代支援、子育て世代支援、移住定住支援、雇用マッチング支援に向けた4つの重点プロジェクトと、その実現を加速させる4つの横断的な取組により、『シン・アイが大きい基山町』～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～の実現に向けて取り組みます。

(1) 実現のための4つの重点プロジェクト

● プラチナ世代支援：

いきいき“プラチナライフ”プロジェクト

- ・ 仕事を通じた生きがいや暮らしの支えを得て、長寿社会を「いきいき」と豊かに暮らす“プラチナライフ”をめざします。
- ・ 健康寿命の延伸のための活動に加え、生活習慣病等の予防や早期発見に取り組むことで、プラチナ世代の健やかでいきいきとした生活を支えます。
- ・ 地域の大切な担い手であるプラチナ世代の経験やスキルを生かし、地域全体の活性化に取り組みます。

● 子育て世代支援：

すくすく“きやまっ子”プロジェクト

- ・ 子育て世代や多世代による交流を通じて、“きやまっ子”を見守り、「すくすく」成長するための取り組みを行います。
- ・ 安心して子育てができるように、こども家庭センターを中心に伴走型の支援を行います。

● 移住定住支援：

わくわく“きやま暮らし”プロジェクト

- ・ 移住定住への心配ごとを解消するための相談体制を構築し、基山町での暮らしが「わくわく」できるように、移住定住希望者に寄り添います。
- ・ 基山町の立地特性と利便性を生かし、仕事と住まいをワンセットとした移住定住支援を実施します。

● 雇用マッチング支援：

ぴったり“おしごと”プロジェクト

- ・ 基山町から通勤圏となる場所での就職を希望する若い世代に対し、「ぴったり」合う雇用のマッチングに力を入れていきます。

(2) 4つの重点プロジェクトの実現を加速させる横断的な取組

● きやま多世代共創の取組

あらゆる世代が個々に輝き交流する多世代共創によって、新たな価値を生み出していきます。

● きやまデジタルライフの取組

行政のDX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進し、町民の利便性向上と行政サービスの効率化に取り組みます。

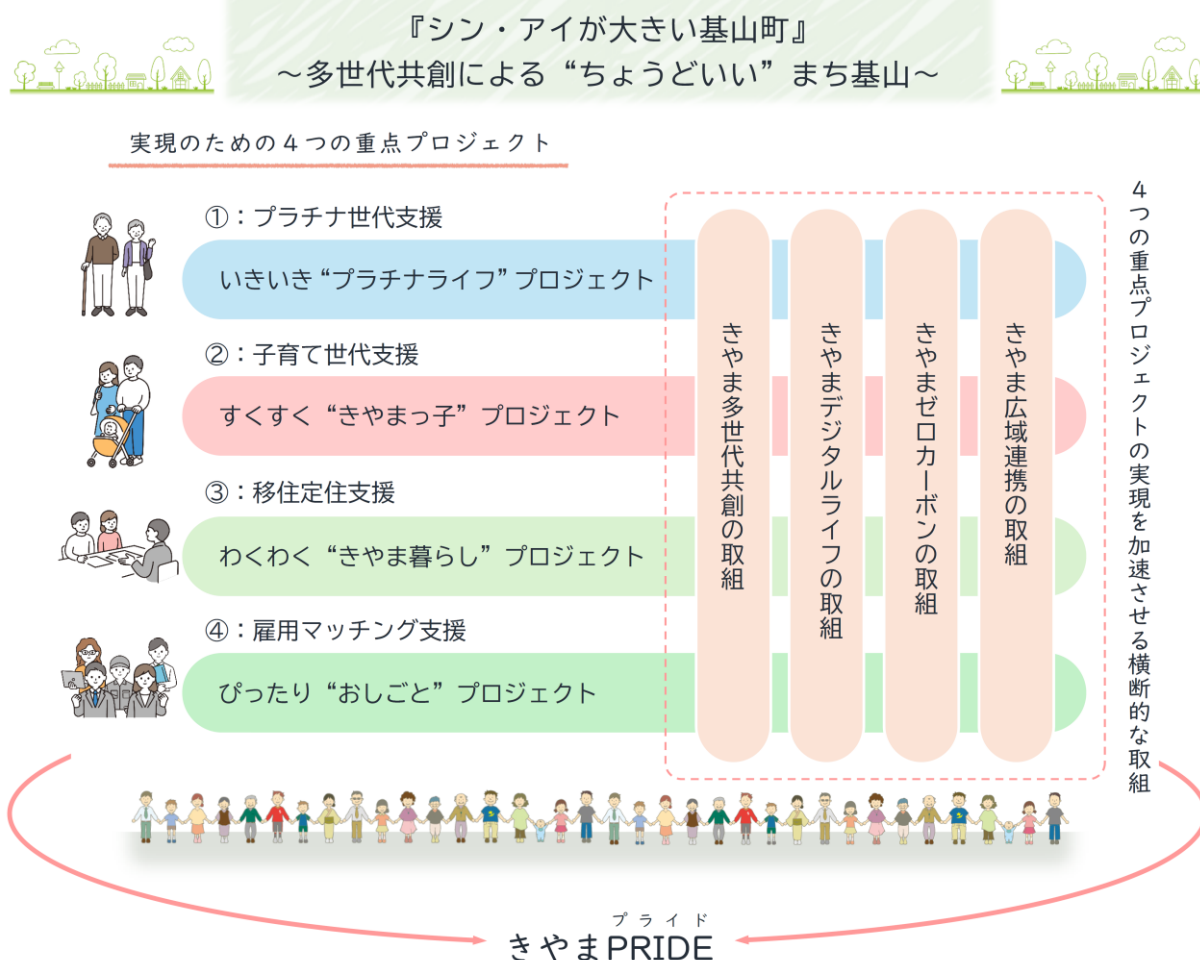
● きやまゼロカーボンの取組

ゼロカーボンシティ宣言の着実な推進に向けて、二酸化炭素排出抑制につながる取り組みを推進します。

● きやま広域連携の取組

地域情勢や町民の暮らしの変化を見据えながら、近隣市町及び民間との関係を築き、それぞれの特性やノウハウを相互に生かした連携を推進します。

重点プロジェクト推進イメージ図



5 まちづくりの全体像

これまでの基本理念を継承しつつ、新たな基山町の将来像である『シン・アイが大きい基山町』～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～と、それを実現するための重点プロジェクトを基山構想と位置づけ、基本計画と連動して取り組んでいきます。

基本理念

- ・心豊かな人と人との関係づくり
- ・自然と共生したまちの魅力づくり
- ・みんなが進める協働のまちづくり

基本構想

- 10年後に実現したいまちの姿(将来像)



～多世代共創による“ちょうどいい”まち基山～

重点プロジェクト

☆ 実現のための4つの重点プロジェクト

- プラチナ世代支援：いきいき“プラチナライフ”プロジェクト
- 子育て世代支援：すくすく“きやまっ子”プロジェクト
- 移住定住支援：わくわく“きやま暮らし”プロジェクト
- 雇用マッチング支援：ぴったり“おしごと”プロジェクト

☆ 4つの重点プロジェクトの実現を加速させる横断的な取組

- きやま多世代共創の取組
- きやまデジタルライフの取組
- きやまゼロカーボンの取組
- きやま広域連携の取組



プライド
“きやまPRIDE”



■ まちづくりの視点・方向性

■ 施策体系



基山町を愛し
夢を実現できる
人を育てる
まちづくり

子育て支援
歴史

学校教育
社会教育



誰もが安心して
健やかに暮らせる
まちづくり

健康・医療
障がい者（児）支援
防犯・防災

プラチナ世代支援
人権・男女共同参画
協働



多様な
地域資源を生かす
まちづくり

農林業
工業

商業
観光



自然と共生した
快適な生活基盤を
ととのえる
まちづくり

土地利用
情報

まちなみ環境
まちの運営

(白 紙)

基山町総合計画について

～計画の位置づけ・役割・推進体制について～

基山町総合計画について

～計画の位置づけ・役割・推進体制について～

1 計画の位置づけと役割

基山町では、平成28年（2016年）3月に今後めざすまちの姿（将来像）を「アイが大きい基山町～住む人にも訪れる人にも満足度No.1のまち基山の実現～」とする「第5次基山町総合計画」を策定し、さまざまな施策や事業を推進してきました。

その「第5次基山町総合計画」が令和7年度（2025年度）で終了することから、今後も町民と行政が連携し、まちの活力や魅力を高めていく施策の展開を図るため、新たな10年間のまちづくりの指針となる「第6次基山町総合計画」を策定します。

まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念は、「めざすべきまちづくりの方向」として、将来においても維持されるものとして位置づけています。

本計画においても、さまざまな新しい視点で計画を策定しますが、基山町がこれまで大切にしてきた精神として、基本理念はそのまま継承します。

基 本 理 念

心豊かな人と人との関係づくり

安全で快適に暮らしていくためには、人と人との心豊かな関係が大切です。これまで培われてきた連帯感や共同意識を失うことなく、「心豊かな人と人との関係づくり」を基本理念とします。

自然と共生したまちの魅力づくり

まちの魅力をその大きさや利便性だけに求めるのではなく、基山町の貴重な財産である自然や歴史・文化を生かし、さらに共に生きる「自然と共生したまちの魅力づくり」を基本理念とします。

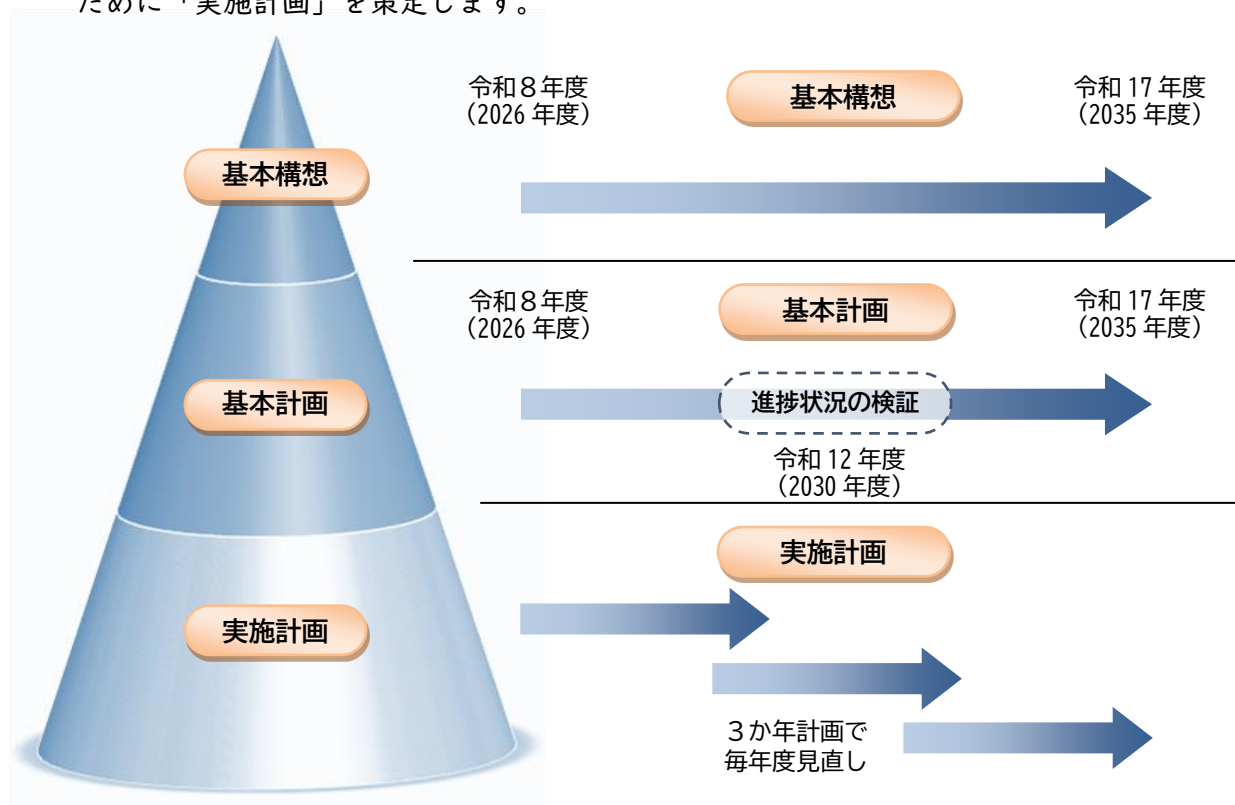
みんなが進める協働のまちづくり

住みよいまちづくりに向けて、町民一人ひとりが地域に関心を持ち、地域で主体的に取り組むことが重要です。また行政においても福祉の増進や基盤整備など、町民と行政がともに考え、行動していく「みんなが進める協働のまちづくり」を基本理念とします。

計画の位置づけ・構成・計画期間

基山町において総合計画は、「基山町まちづくり基本条例」に基づき、「10年後に実現したいまちの姿」（将来像）を明らかにし、その実現に向けたまちづくりの指針を定める、基山町の最上位計画に位置づけられています。

次のように、総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成し、さらにこれを具現化するために「実施計画」を策定します。



- **基本構想** 【令和8年度（2026年度）～令和17年度（2035年度）：10年間】
 - ・町のめざす将来像と将来の目標を明らかにし、これらを実現するための基本的な施策の大綱を示すものです。
- **基本計画** 【令和8年度（2026年度）～令和17年度（2035年度）：10年間】
 - ・基本構想に掲げた将来像や目標、基本的施策を実現するために取り組む施策体系や施策の方向性を示すものです。各施策に中間年度と最終年度の目標値を設定し、中間年度（令和12年度（2030年度））に進捗状況の検証を行います。
- **実施計画** 【令和8年度（2026年度）を初年度とし、3か年計画で毎年度見直し】
 - ・基本計画に示した施策への具体的な取り組みや実施期間を明らかにした短期的な計画で、毎年度における予算編成や事業実施の指針とするものです。
 - ・実施計画については、総合計画とは別途に作成します。

計画の役割

「第6次基山町総合計画」は、次のような役割を持つ計画とします。



多世代共創
(推進力)

シティ
プロモーション
(発信力)

未来へつなぐ戦略
(持続可能)

●「多世代共創」(推進力)

- ・町民、地域団体、企業、行政等による協働のまちづくりとともに、多様な世代や人材が活躍する「多世代共創」によって、今後10年間のまちづくりを実現するための推進力となる計画とします。

●「シティプロモーション」(発信力)

- ・基山町の「^{いま}現在」を表す強みである“きやま^{プライド}PRIDE”を生かしたまちづくりを通じて、町内外へ基山町をPRする「シティプロモーション」の役割を担う発信力を持った計画とします。

●「未来へつなぐ戦略」(持続可能)

- ・多分野に関わるまちづくりの取組を体系化し、現在の暮らしを支える取組や未来への投資、周辺地域との連携など「未来へつなぐ戦略」として持続可能なまちづくりを示す計画とします。

SDGsによる取組について

SDGs (Sustainable Development Goals) は、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

SDGsの目標(ゴール)は、世界共通の目標であり、地方自治体の掲げる目標規模とは異なるものもありますが、めざすべき方向性は同じと考えられるため、本計画においても、こうした流れを踏まえ、持続可能な取組が求められます。

本計画では、SDGsとの関連性が分かるように対応するゴールを各施策に表記し、国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標(SDGs)」の考えを関連付けることで、中長期的な視点でまちづくりを進めていくこととします。



2 計画の円滑な推進

個別計画への反映・事業実施への仕組みづくり

総合計画は、全ての行政分野にわたるため、本計画が行政の経営指針となるよう、各行政分野の方針や具体的な取組を示した個別計画と連動しながら、「10年後に実現したいまちの姿」（将来像）の実現に結びつくよう取り組みます。

多様な主体との連携（協働・共創）による推進

基山町の「^{いま}現在」を表す強みである“きやま^{プライド}PRIDE”と個々の持つ潜在力を最大限に生かし、地域や世代を超えた多様な主体との連携（協働・共創）によるまちづくりを推進します。

まちづくりの評価の実施

計画の円滑な推進にあたっては、まちづくりの体系にかかる各施策・事業の取組や、事業実績、町民の意見等を把握するとともに、町民の満足度をはじめ、ハード・ソフトのあらゆる視点で指標化し、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善））に基づいて、評価を行います。

